

リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内小学校（岡山県）

【取組内容①】個別最適な学びの場面での自分にあった学習方法・アプリケーションの選択

4年生 社会科「自然災害から命を守る」「地いきの発てんにつくした人々」
 使用アプリ：Jamboard、Googleスライド、学習支援ソフト

【活動内容】

本校では、できるところから個別最適な学びと協働的な学びの一体化を進めていくことを教員全体で共通理解しています。そこで、最初のステップとして、学習方法の選択をするところを子どもたちに委ねることに取り組んでいます。

4年生の社会科を例に具体的に説明します。すべての授業を個別最適な学びにするのではなく、単元の一部を個別最適な学びにするところからはじめています。「自然災害から命を守る」では、まず全体で「自助・公助・共助」とは何かを確認しました。その後、具体的にそれらにはどのような取り組みがあるのかを調べる活動を行いました。これを個別最適な学びの時間として2時間とりました。

- | | | |
|--------|-------------------------------------|----|
| • 学び方 | ：1人、ペア、グループ、わからなくなったら周りの友達に聞きに行く | など |
| • 調べ方 | ：タブレットで検索（どのサイトを使うか）、パンフレット、本、教科書 | など |
| • まとめ方 | ：紙のノート、Jamboard、Googleスライド、学習支援ソフト | など |
| • 表現方法 | ：プレゼン、新聞、ポスター、ランキング、ウェビング、ピラミッドチャート | など |



写真からもわかるように、1人で追究している子もいれば、ペアでしている子、グループでしている子もいます。調べ方もタブレットで検索することを選ぶ子もいれば、本や教科書を選ぶ子もいます。まとめ方も、紙かタブレットかということだけではなく、どのアプリを活用するかというところまで子どもたちが選択できるようにしています。自分にあった学習方法を選択しているため、子どもたちはより主体的に学習に取り組み、学びを深めることができます。このように、本校では、学年の実態に合わせながらではありますが、少しずつ子どもたちに選択させていく機会をつくることを、どのクラスでも実践しています。